



かながわ フリートリーク

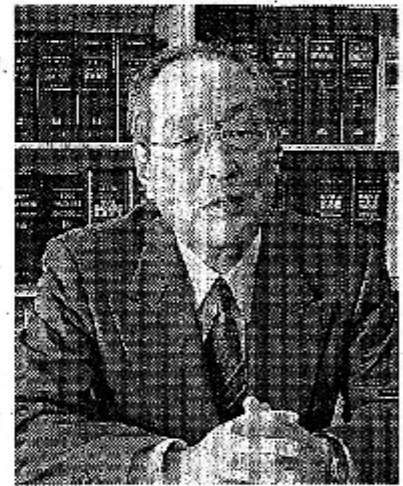
中小企業は製造業、建設業でなお厳しい状況だ。苦境を乗り越え、「持続可能」な会社へと体質を変えるには何が必要か。経営者塾などを通じ、強い企業の研究を続ける公認会計士・税理士の高良明氏に話を聞いた。同氏は会計士事務所や人材紹介会社など6団体で構成する創新グループ（川崎市）の代表を務める。

——優秀な企業の社長を訪ね、自ら経営の実態を聞くことを勧めている。

「『創新塾』という経営研究会を運営している。7

中小、存続の秘訣は

創新グループ代表
高良 明氏



強み伸ばし蓄積増やせ

己資本比率が70%を超え、生活の切りつめをおる。また、川崎市の小川組は販管費の3年分を現預金で所有し、自己資本比率も50%を上回っている」

——中小企業はどう難局を乗り越えればいいのか。「本業の強みを少しずつ

「業績が安泰な時こそ、蓄積を増やすのが基本。松下幸之助さんが言った『タム経営』だ。信用力が乏しいのだから、高級車など買わず身の丈をわきまえる」と。それができない企業は耐え忍ぶしかない」

——中小企業向け緊急経済対策の課題は。「融資の際、有益な事業に使用されるのかといった審査を重視した方がいいと思う。今は運転資金に回る場合が多いが、税理士が返済計画の適否などをしっかりと確認する仕組みも必要だろ

8人のチームに分かれて個別に行動していたが、今初めて「1000年企業探求会」を開き、全体発表する場を設けた。塾では自社の財務諸表や経営の悩みもさらけ出す。他社の社長から厳しい指摘を受け、互いに解決策を出し合ういわば「社外重役会議」で、全国から参加している」

——優れた企業や経営者が持つ共通点は何か。「強い会社は倫理観と生産性の2つがしっかりしている。従業員の心をつかむ考え方、時流への適応性、財務バランスが肝心だ」

——例えば（採血管準備装置の）テクノメディカは高い売上高経常利益率を維持し、内部留保を蓄積して自

「不要・遊休資産はすぐ売却する。経営の悪化をささくばらんに従業員に説

神奈川